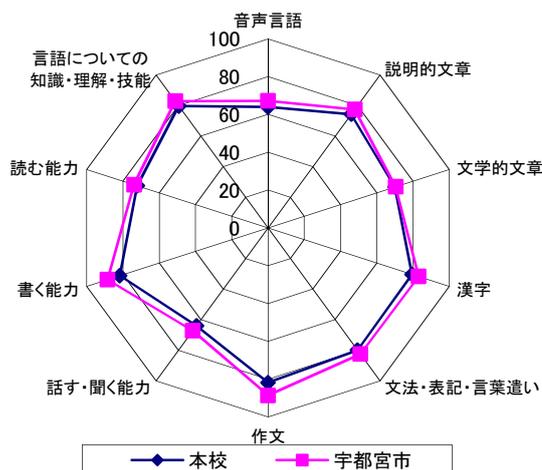


# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	64.0	67.2
	説明的文章	74.3	77.5
	文学的文章	70.0	70.4
	漢字	79.5	83.1
	文法・表記・言葉遣い	79.9	82.5
	作文	81.8	88.6
観点別	話す・聞く能力	64.0	67.2
	書く能力	81.8	88.6
	読む能力	72.2	73.9
	言語についての知識・理解・技能	79.7	82.9



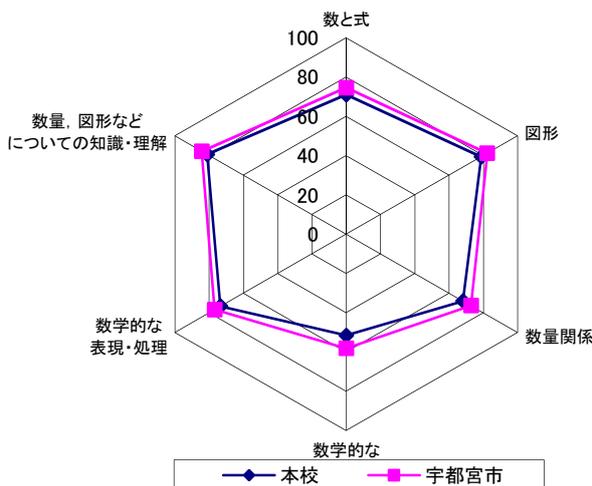
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (64.0%)	・本年度の市の平均と比べ、3.2%下回っている。特に「中心の部分と付加の部部の聞き分け」を問う問題の正答率は、市の平均正答率より7.1%も下回っている。しかし、昨年度市の平均よりも5.2%下回っていた「事実と意見の聞き分け」を問う問題では、市の平均との差が1.0%にまで近づいたという結果となった。	・話し手が、今何を伝えようとしているのか、聞き取るポイントをおさえて聞こうとしていないと考えられる。そこで、普段の授業の中で、発表をする機会や、発表を聞き取って文字でまとめたり、疑問に思ったことなどを質問したりというような活動を取り入れ、どのような点に集中して聞き取ることが必要なのかを身に付けさせる。また、ディベートやディスカッションの機会をつくるなど、話す活動を増やす。
説明的文章 (74.3%)	・市の平均正答率を上回っている問題もあったが、「文章の構成や展開」を問う問題の正答率は、市の平均より7.8%も下回っている。結果として、本年度の市の平均と比べた場合、説明的文章に関する領域は、3.2%下回る結果となった。	・生徒は、文章がどのようにして構成されているのかを意識して授業に取り組んでいないと考えられる。説明的文章は、読み手に分かりやすく伝える工夫がしてあることを意識し、そのためにはどんな構成の工夫があるのかを理解させる。また、問題提起・体験・理由・結論など、何が書かれているのかをはっきりさせる授業を展開していく必要がある。
文学的文章 (70.0%)	・本年度の市の平均と比べ、0.4%下回っている。この領域に関しては、市の平均とそれほど変わらないという結果となった。「文章の主題」を読み取る問題では、市の平均より2.7%上回ったが、「登場人物の心情」を読み取る問題では7.9%下回っており、心情を読み取る力が弱いことが見て取れる結果となった。	・昨年に引き続き、普段の授業において場面の変化や情景描写の部分から、主人公の気持ちや心情の変化を読み取る力を身に付けさせる必要がある。登場人物の心情が表れている箇所を探させるなど、心情を表す表現に気づかせる授業を展開する必要がある。
漢字 (79.5%)	・漢字の読み取りに関しては、市の平均と大差はない。しかし、書き取りにおいては大きく差が開いた。「1年生の漢字の書き取り」では7.0%、「2年生の漢字の書き取り」では16.7%も正答率が低かった。更に、「一般」と書けた生徒は本校で51.1%に止まり、約半数の生徒が誤答という結果となった。	・基本的な漢字の書き取りを毎時間の授業の中で行うことが必要である。漢字は積み重ねが大切なので、毎時間行い、習慣化させる。また、漢字練習をする習慣が身に付けさせ、自主学習などで普段から練習をさせる。更に、定期的に小テストを行い、漢字の書き取りの力をつけさせることが必要である。
文法・表記・言葉遣い (79.9%)	・本年度の市の平均と比べ、2.6%下回っている。「動詞・形容詞・形容動詞」を問う問題で3.9%、「歴史的仮名遣い」を問う問題で3.8%正答率が下回っている。文法に関する問題と古典の問題に弱い傾向が表れている。しかしながら、本校の正答率だけで見れば、79.9%と、約8割の生徒が正答という結果となった。	・文法に関しては苦手意識をもつ生徒が多いので、繰り返し問題に取り組ませ、理解させることが必要である。できるだけ問題を解く時間を設け、文法の問題に対する苦手意識を減らしていく。また、古典の授業では、声に出して読むことを繰り返し行い、歴史的仮名遣いの読み方を徹底させることが必要である。
作文 (81.8%)	・作文の問題については、本校の正答率は昨年の75.0%と比べ、6.8%増加し、81.8%となった。しかしながら、市の平均と比べると6.8%下回るという結果となった。特に意見を述べる形式の問題が苦手で、市の平均正答率と比べ、9.5%下回っている。	・文章を書くことに慣れていない生徒が多いので、普段の授業から、書く機会を多く取り入れる。また、書き言葉と話し言葉の区別がきちんとついていないことが多いので、書いた文章を推敲し、間違った表現を正しく直していく必要がある。また、ダイアリーを毎日書くなど、日常的に文章を書く習慣をつけさせることも必要である。

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	71.0	74.6
	図形	78.8	82.2
	数量関係	68.1	72.8
観点別	数学的な見方や考え方	51.5	58.1
	数学的な表現・処理	73.4	76.8
	数量、図形などについての知識・理解	81.1	84.3



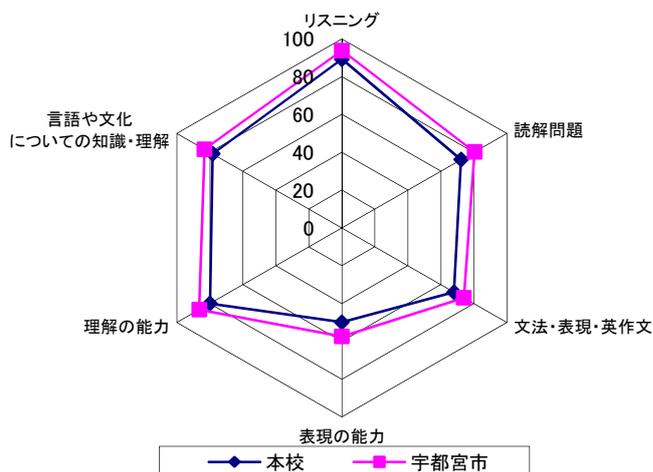
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (71.0%)	・宇都宮市と比べると、3.6ポイント低い。内容分析をしてみると、「連立方程式」が6.0ポイント「等式の変形」が8.4ポイント、「文字式の利用」が13.9ポイント低いことが分かる。学習した内容を定着させるための繰り返し学習をすることが不足していると考えられる。	今年度の反省をもとに、連立方程式を中心とした計算力の向上を目指すために、ドリル学習を取り入れていきたい。また、学習後も繰り返し学習する力をつけるために家庭学習が習慣化するよう、課題掲示の仕方にも工夫していきたい。
図形 (78.8%)	宇都宮市と比べると、3.4ポイント低い。内容を分析してみると、「三角形の合同条件」3.8ポイント、「三角形の合同の証明」6.7ポイント低いことが分かる。三角形の合同条件が身につけていないこと、証明の書き方が理解不十分であることがわかる。	合同条件や図形の性質を証明でどう使うか、ポイントをおさえた指導を心掛けていきたい。図形の見方、証明の書き方なども繰り返し学習できるように課題掲示をしていきたい。
数量関係 (68.1%)	宇都宮市と比べると、4.7ポイント低い。内容を分析してみると、「1次関数のグラフと直線の式」7.6ポイント、「1次関数の利用」が6.8ポイント低いことが分かる。1次関数の直線を求める力が不十分であること、身につけていないことが理解不足にもつながっていると考えられる。	本領域においては、苦手意識を持っている生徒が多いと思われる。グラフを利用して解く問題など、応用的な問題になると達成度が大きく下がってしまう。グラフを視覚的にとらえる力をつけ、グラフや式の意味を考える時間を設けていきたい。グラフに関心をもつよう視覚的指導や繰り返し学習の指導に心掛けていきたい。

# 宇都宮市立陽東中学校第2学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	89.3	93.8
	読解問題	72.3	80.4
	文法・表現・英作文	68.0	73.9
観点別	表現の能力	49.9	57.4
	理解の能力	80.0	86.5
	言語や文化についての知識・理解	78.3	83.3



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (89.3%)	正答率が、89.3%であり、市の平均を4.5ポイント下回っている。しかし、他の読解問題や文法・表現・英作文の領域の正答率に比べて、90%に近くに達しているため、英語を聞き取る力については、おおむね定着していると考えられる。	新出単語の発音や本文の音読にさらに力を入れ、ひとりひとりがしっかりと発音を身に付けられるように指導するとともに、ある程度まとまった英文をメモをとりながら聞く習慣をつけるなどを日頃から意識させて行い、リスニングの力を高めるようにしていきたい。さらに、ALTのまとまったスピーチを聞いて、質問に答えさせるなどの活動を行うなどの授業展開も多く取り入れていきたい。
読解問題 (72.3%)	正答率が、72.3%と市の平均を8.1ポイントも下回っている。長文の読解を行い内容を細かく読み取るなどの活動を苦手としている生徒が多く、長文の意味をしっかりと読み取ろうという取り組みを行うことなく、解答してしまっている生徒が多く見られる。	普段から、長文を読み取る力を身に付けさせるために、新出単語や基本文の定着を図るとともに、教科書の読みものの単元や資料、教科書以外の英文にもふれる機会をもち、全体の大まかな内容をとらえたり、意味を推測しながら英文を読み取る力を身に付けさせていきたい。
文法・表現・英作文 (68.0%)	正答率が、68.0%と市の平均を5.9ポイント下回っている。記述式問題の反応率を見ると、無回答の生徒が平均して25.7%もいて、市と比べて8.2ポイントも低く、基本的な語彙の量や文法事項の理解が不足している生徒が多く見られる。	基本的な語彙の定着や文法事項の理解を深めるために、普段から、英単語の練習や基本文に似た英作文などに取り組ませたい。そして、小テストやワークシートを活用するなどして、添削を繰り返すことによって、生徒が自信をもって問題に取り組めるような力をつけていくようにしていきたい。